

岡見小学校だより



は きょう
波響

子どもにつけたい力
これからの時代を生き抜く力

【自治力】ひととつながる力
【学力】学びに向かう力
【体力】やりきる力

めざす子ども像
思いやりとやる気

お:思いやりのある子
か:考え創りだす子
み:自らきたえる子

令和6年
1月24日

No.19
(通算No.701)
校長 細川寿俊

「ふるさと教育」vs「グローバル教育」

「課外授業 ようこそ先輩！」 世界に目を！ふるさとに誇りを！

かつてNHKで「課外授業 ようこそ先輩」という番組がありました。その中で、日本を代表するジャズサクソフォーン奏者の坂田明さんが母校（広島県呉市）を訪問された時のものが強く心に残っています。その回のテーマは

「吹けや 歌えや 故郷は音楽だ！」

「ジャズのプレイヤーが、小学生を相手に何をするんだろう？ジャズを教えるのかな～？」興味本位で番組を見始めました。

ところが坂田さんが選んだ楽曲は、なんと「音戸の舟唄」…坂田さんのふるさと呉市長浜地区に伝わる民謡でした。

選曲に関して坂田さんはこんな話をしておられました。

「海外（おそらくモンゴル）を訪問した時、地元の方に大歓迎をしてもらった。郷土料理をごちそうになり、地元の伝統的な歌をたくさん歌ってもらった。その際に『あなたは音楽家なんですね。ぜひあなたのふるさとの音楽を教えてください。』と頼まれた。プロのミュージシャンでありながら、ふるさとの音楽を何も知らない自分に初めて気が付いた。子供たちには、**まずふるさとをしっかりと知ってほしい。**」

最終的には、実際に伝馬船を漕ぎながら、「音戸の舟歌」を子供たちみんなまで歌い、ふるさとの生活や人々の願いや思いを考えるという内容でした。



「心豊かな子供を育てるには、ふるさとへの愛着や誇りを醸成することが大切だ！」

「これからの時代を生きるには、グローバルな視野が欠かせない！」

一見、相反することのように思えますが、私には、「車の両輪」「互いになくてはならない関係」のように思えてなりません。

グローバルに物事を見たり、考えたりするには自分自身の生活の中心であるふるさとを基準に考えること、ふるさとと比較することなどが欠かせません。

また、ふるさとのよさや課題を的確に捉え、ふるさとに貢献していくには、幅広く他の地域のこと、他の国のことを知っておく必要があります。

坂田明さんも、同じようなことを思われたのではないのでしょうか。

.....

昨年12月に島根県教育委員会が「ふるさと教育」の実施基準を年間35時間から20時間に引き下げるとの方針を示しました。

県内の各学校や地域は、「ふるさと教育」を柱として、学校と地域の連携や学校間の連携を進めて来ました。（三隅地域では小学校と中学校の連携、小学校同士の連携を行っています。）また小学校では地域にある保育所や幼稚園との連携（保・幼・小連携）も進めています。

浜田市は、これまで通りふるさと教育を進めるという方針です。岡見小学校でもこれまでどおり、これまで以上に学びの多いふるさと教育・ふるさと学習ができるように工夫をしていきたいと思っています。